

国際線、6割増の38路線目指す

■福岡空港会社5カ年計画

福岡国際空港会社は5カ年の中期事業計画（2024年度～28年度）で、国際線旅客便ネットワークの規模について、23年度末（23路線）から6割強の増加となる38路線を目標に掲げた。東南アジアのリゾート路線や中国の未就航都市、欧米豪路線の誘致に取り組む方針だ。中期計画最終年度にあたる28年度の旅客数の目標は2800万人（23年度見通しは2480万人）で、内訳は国際線1000万人（同704万人）、国内線1800万人（同1776万人）。

路線開設を目指す都市の例は、中国は北京や広州、深圳、東南アジアはセブやバリ、ダナンなど。グアムやハワイ線の定着を図るとともに、その先には米国本土の都市との路線開設も目指す。欧州はヘルシンキ線の再開に取り組む。オーストラリア線の開設に向けた協議も進める。

福岡空港は25年3月末に増設滑走路の供用開始を予定。発着回数の増加、国際線・国内線の施設完工を控

えている。それらを踏まえた重点的な取り組み事項として①安全・安心・安定的な空港運営の継続②需要を確実に受け入れるための環境整備③航空ネットワーク拡充と時間価値、空間価値の提供④地域とのさらなる信頼関係構築——をあげている。

国際線の受け入れ体制強化の一環として、国際線旅客ターミナルビルを増改築して、二次交通を集約したアクセスホールを整備（24年11月竣工）するほか、保安検査場や出国・入国審査場を拡張（25年3月竣工）する計画だ。南側コンコースを延伸してスポットを増設（26年度竣工）する。南側コンコース延伸に合わせてビジネスジェットの受け入れ施設整備が計画されており、竣工は26年度の予定だ。

地域とのさらなる信頼関係の構築も重視している。「地域からの要望に応じた、環境変化や時代の潮流に合わせた地域共生事業の継続」「地域共生事業の『まち・ひとづくり』施策で、空港周辺地域および空港の持続

的な発展への貢献」に取り組む。福岡県の空港の将来構想実現に向けた協力として、24時間利用可能な北九州空港の特性の活用にも言及。北九州空港への貨物便の増便・誘致、北九州空港と一体となった福岡のプロモーション活動を推進する。

福岡国際空港会社は、運営権の設定・民間委託（コンセッション）のスキームを活用して、19年4月1日に滑走路の運用などを含む「航空系事業」を開始することで、空港の運営を本格的に開始。30年後（48年度）の将来イメージを盛り込んだマスタープランは「比類なき東・東南アジアの航空ネットワークを有する、東アジアのトップクラスの国際空港」を目標に掲げた。東・東南アジアの就航国数は14カ国・地域／51路線、旅客数3500万人（国際線1600万人、国内線1900万人）／100路線（国際67路線、国内33路線）を目指している。